

# 秀吉の国内・対外政策

秀吉が征服地に検地を施行し、全ての土地を面積ではなく米の標準収穫量「石高」で示すことが可能になった。大名・武士・百姓たちは、石高の有無・多少で序列化されていく。この社会の在り方を石高制と呼び、その形成過程で兵農分離が進行する。もはや先祖伝来の土地を守りながら武装し、かつ農業経営にたずさわる存在は許されなくなる。この点で中世と近世では性格に違いが出てくる。

## ○国内政策

### ●経済基盤の確保

豊臣氏の経済基盤は次の2つであった。

- ①約 220 万石の莫大な直轄領蔵入地からの収入
  - ②直轄鉱山（佐渡金山・生野銀山・石見大森銀山など）からの収入
- ⇒これらを財源に<sup>(1)</sup> \_\_\_\_\_ などの貨幣を铸造した。



天正大判

秀吉が铸造させた定量 165g の金貨で、贈答に使用された。铸造は、金工を家業とする後藤氏が担当した（後藤祐乗の子孫）。

### ●検地と刀狩と兵の確保

羽柴秀吉の以下の政策を通して、<sup>(2)</sup> \_\_\_\_\_ が進行した。

#### <検地>

秀吉は、屋敷地を含む全国の土地に、土地政策<sup>(3)</sup> \_\_\_\_\_ を実施した。

- ①田畑の面積を 1 段（反）= 360 歩から 1 段 = <sup>(4)</sup> \_\_\_\_\_ 歩に変更
  - ②測量・調査した田畑を 4 つの等級（上・中・下・下々）で区別し、等級に応じた田畑 1 段あたりの生産量目安を石盛（斗代）と呼称
  - ③田畑の総生産量（～石）は、「石盛×総面積」で算出した<sup>(5)</sup> \_\_\_\_\_ で把握可能
- ⇒(5) を基準に、大名・社会などを管理する在り方は（5）制と呼称
- ④宣旨枳などの使用を止め、<sup>(6)</sup> \_\_\_\_\_ に統一
  - ⑤田畑一区画の耕作・所有・年貢負担者を 1 人とする<sup>(7)</sup> \_\_\_\_\_ を確立し、その者から領主に年貢が納められる過程での中間搾取を否定

◇収穫の取り分は二公一民（領主：耕作者＝2：1）

- ⑥1591 年、大名に分国の<sup>(8)</sup> \_\_\_\_\_ ・国絵図の提出を命令

◇(8) …土地台帳であり、田畑・屋敷地の所有はこの台帳に登録された者に許可

#### <刀狩>

1588 年、秀吉は<sup>(9)</sup> \_\_\_\_\_ を出して、百姓から武器を没収した。

⇒百姓の身分の明確化、一揆防止による農業への専念化に繋がった。

◇回収した武器は、<sup>(10)</sup> \_\_\_\_\_ の大仏などに利用

#### <兵の確保>

朝鮮侵略に備えて、兵と米の生産者の定数確保が必須であった。

⇒1591 年、秀吉は<sup>(10)</sup> \_\_\_\_\_ （ \_\_\_\_\_ ）を出して、

武家奉公人（兵）が町人・百姓になること、百姓が商工業に従事することを禁じた。

◇(10) …1592 年、秀吉の養子である関白豊臣秀次も発令

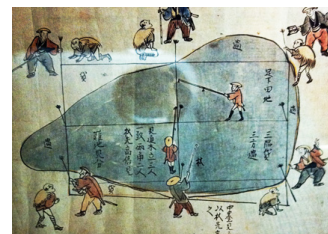


図1 田畑の測量



図2 京枳

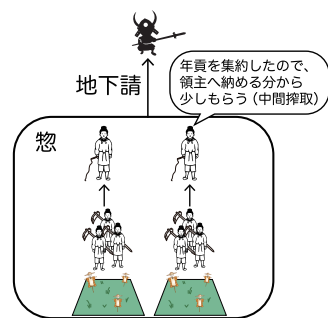


図3 太閤検地以前

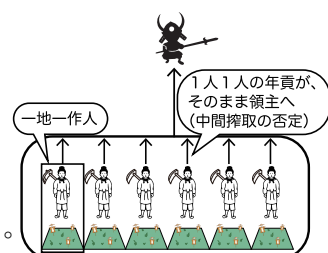


図4 一地主一人

## ○ 対外政策

### ● 倭寇対策と海上の兵農分離

1588 年、豊臣秀吉は<sup>(11)</sup> \_\_\_\_\_ を出し、<sup>(12)</sup> \_\_\_\_\_ などの海賊行為を禁止した。  
⇒海上の安全を確保して商人に貿易を奨励し、また、元海賊を漁業に従事させた。

### ● キリスト教対策

当初、羽柴秀吉はキリスト教の布教を許可していた。  
→1587 年の九州平定の際、国内初のキリシタン大名**大村純忠**<sup>すみただ</sup>が  
**長崎**を教会領としてイエズス会に寄付したと聞いた。  
→大名のキリスト教入信を許可制にするとともに、  
<sup>(13)</sup> \_\_\_\_\_ を出し、宣教師の国外追放と教会領没収を命じた。  
⇒一方で南蛮貿易は従来通り許可したため、キリスト教の取締りは不徹底  
◇1596 年、土佐国に漂着した**サン＝フェリペ号**の乗組員の失言で、  
宣教師・信徒の処刑 **26 聖人殉教**<sup>じゅんぎょう</sup>が発生（秀吉の唯一の直接的迫害）  
◇播磨国の大名高山右近<sup>うこん</sup>は、信仰を捨てずに領地没収の処分  
◇一般人の信仰は「その者の心次第」として黙認



図5 26 聖人像（場所：長崎）

### ● 朝鮮侵略

1587 年の九州平定後、対馬の宗氏を通じ、朝鮮に明出兵の先導を要求した。  
→これが拒否されたため、肥前国の<sup>(14)</sup> \_\_\_\_\_ に本陣を築き、  
朝鮮への 2 度の出兵<sup>(15)</sup> \_\_\_\_\_（文禄・慶長の役）を試みた。  
⇒朝鮮侵略は、朝鮮側では<sup>(16)</sup> \_\_\_\_\_ と呼称される。

↓  
①**文禄の役**…1592 年、秀吉は大軍を派兵して、<sup>ソウル</sup>漢城・<sup>ピョンヤン</sup>平壤を占領  
→<sup>(17)</sup> \_\_\_\_\_ の率いる水軍の補給路分断、明の援軍で戦局不利  
⇒和平交渉も秀吉の強硬な要求で決裂

②**慶長の役**…1597 年、秀吉は再度大軍を派兵したが、初戦から苦戦  
⇒翌年に秀吉が病死し、その後に撤兵



図6 李舜臣

↓  
朝鮮侵略は、膨大な戦費と兵力を浪費し、豊臣氏を弱体化させた。

## ○ 豊臣政権の衰退

### ● 独裁から合議へ

独裁が著しかった豊臣秀吉も、晩年は家臣 5 人を五奉行として政務にあたらせ、  
また、有力大名（大老、後に<sup>(18)</sup> \_\_\_\_\_ と総称）に五奉行の顧問をさせた。  
⇒秀吉の死後、豊臣氏の政権は急速に解体へと向かった。  
◇五奉行…<sup>ながまさ</sup>浅野長政・<sup>ましたながもり</sup>増田長盛・<sup>みつなり</sup>石田三成・<sup>げんい</sup>前田玄以・<sup>なつかまさいえ</sup>長束正家  
◇大老 …<sup>てるもと</sup>徳川家康・<sup>うきた</sup>前田利家・毛利輝元・上杉景勝・宇喜多秀家・小早川隆景  
…小早川の死後、残り 5 人を（18）と総称